

## 平成24年度 第3回 市川市地域自立支援協議会

日 時：平成24年11月26日（月）  
午前10時～12時

場 所：急病診療・ふれあいセンター  
2階 第2集会室

### 会 議 次 第

- 1 開会
- 2 障害者団体連絡会・各専門部会からの報告・協議
- 3 障害者虐待防止センターについて
- 4 その他
- 5 閉会

平成 24 年 11 月 26 日

## 障害者団体連絡会報告

市川市障害者相談員・腎臓患者友の会会長 名古屋恒夫氏 9 月 25 日にご逝去。  
これまでのご活躍・功績に敬意を表します。

自立支援協議会生活支援部会より協力依頼あり、11 月 21 日ハートフルセミナー  
の障がい者の講演依頼で、内部障がい者木下静男、視覚障がい者清水朝子、聴  
覚障がい者植野圭哉を推薦し、講演並びにグループディスカッションの予定。

九都県市合同防災訓練アンケートの抜粋報告。

プロジェクトチームを作り、大井好美・富岡太郎・木下静男、知的・自閉・発  
達に関しては要望事項を菅野さんがまとめて作成。要望事項作成後、来年 3 月  
に危機管理課に提出して、現在の地域防災計画についての勉強・説明会の要望。

来年度の規約改正、活動・方向性について話し合えれば話し合いたいと思う。

障がい者週間の 12 月 5 日から 9 日まで、JR 市川駅前アイリンクタワー45 階で、  
九都県市防災訓練で使ったパネル展示、防災パンフレット、ハートフルマップ  
の配布・啓発活動。(生活支援部会の人と一部協力)

## 相談支援部会 活動報告

## 1. 市川における指定障害（児）者相談支援事業ガイドライン（仮称）の作成

## (1) 作成の目的

- ・利用者に対して、相談支援のサービスの具体的な内容を明確にする。
- ・事業者に対して、市川における障害（児）者相談支援事業で提供すべきサービスの最低限の水準を示す
- ・地域に対して、市川における障害（児）者相談支援事業の質の維持、向上を図る

## (2) 作成作業の位置づけ

- ・相談支援部会において実情を踏まえながら事業所及び関係機関の申し合わせ事項として案を作成し、自立支援協議会に提案する。

## (3) 作成時期

- ・平成24年度末を目処に作成する。

## (4) 周知の方法

- ・事業者に対して、ガイドラインを活用した研修会を企画する。
- ・利用者に対しては、ガイドラインをもとに別途、わかりやすい啓発資料を検討する。

## 2. 研修会の企画について

(1) ガイドラインを周知するための研修会 → ガイドライン作成の時期を見て、年度内もしくは来年度初めに開催を検討

(2) 年度末に、地域全体の相談支援体制に関する研修会の開催を検討

(テーマの候補)・先進地の取り組みについて

- ・スーパービジョンの手法について

## 3. グループ・スーパービジョンの試行について

\*スーパービジョンとは、福祉職場においてよりよい援助を行うために上司が具体的な助言をする等の教育法。グループ・スーパービジョンは、グループの参加者が相互に助言を与え合う方法を指す（朝比奈の説明）。

(1) 相談支援部会で視察を行った埼玉県川越市の取り組みを参考に、3回、試行を行って一定の成果と課題を確認してきている。

(2) 日常業務において課題解決が困難になっている個別事例を取り上げ、参加者が自由に解決に向けたヒントやアイデアを出し合うことで、困難な課題を抱え込みを防いでよりよい相談支援活動につなげていくとともに、担当する職員の支援につなげることを目的とする。

- (3) 守秘義務に鑑み、個人が特定される情報は取り扱わない。また、会議の構成メンバーは、市川市障害者支援課及び直営の事業所、市川市の委託により同等の守秘義務を負う事業所の職員とし、オブザーバーとして相談支援部会幹事を加える。
- (4) 会議は月1回の頻度で開催し、各回において2～3事例を取り上げる。困難事例にあたる基幹型支援センターえくるの役割を重視し、えくるの事例検討を定例化するとともに、当該事例の地区担当ケースワーカーにも出席を求める。
- (5) 会議の構成メンバーではない民間の相談支援事業における困難事例については、毎回の会議開催にあわせて取り扱いの希望を把握し、当該事例の検討について参加を可能とする。
- (6) 試行期間は平成24年度とし、本格実施に向けてさらに具体的な実施のあり方等について定めていく。

## 生活支援部会報告

生活支援部会では、1～2 か月に一度のペースで部会を開催し、関連協議会等（居宅支援連絡会・グループホーム等連絡協議会・重心サポート会議・日中活動連絡会）からの報告を受け、情報の共有、改善に向けた検討をおこなっております。

8月28日開催の第2回自立支援協議会後は、9月21日に今年度第4回の部会を開催し、市内の社会資源等についての現状を共有しました。

第2回自立支援協議会で承認を受けた「送迎に関するアンケート」は、9月に実施し、現在集計および分析を行っているところです。

また、生活支援部会内に設けたハートフルセミナー実行委員会では、千葉県の福祉・介護人材確保対策事業補助金を活用し、障害にかかわる啓発と人材確保の取り組み（ハートフルセミナーの開催等）をおこなっています。

尚、本協議会後の11月28日に次回部会の開催となるため、以下の報告等は仮のものであることをご了承ください。

## ○人材確保・啓発の取り組み

## ①第3回ハートフルセミナー

- ・日時 平成24年11月21日（水） 10時30分～14時30分
- ・場所 生涯学習センター内 カフェテラスぴっころ
- ・参加者 17名
- ・講師 障害者団体連絡会より3人の方（内部障害・視覚障害・聴覚障害分野）  
+精神障害分野

（受付・グループワーク等には、重心、知的障害の方にもご参加いただいた）

※セミナー終了後、希望する事業所等での1日体験実習となっており、実習報告書の回収後にセミナー全体の総括を行い、周知方法を含め次回以降につなげる予定。

## ②障害者週間イベント（仮称・案）

市川市の企画する下記のイベント等に合わせて、12月9日（日）（一部8日）に、市民向けに“障がいについて知ってもらおう”ための取り組みを企画中。障害者団体連絡会とも連携して実施したいと考えている。

※予定：スタンプラリー、チーバくん招へい、障害関連DVD上映、体験コーナー、パンフレット配布、ハンドベル演奏、等

- ・講演会 <12月8日（日） @グリーンスタジオ>
- ・障害福祉関係団体の自主製品販売会 <12月8日、9日 @市川駅北口観光・物産案内>
- ・障害福祉サービス事業所のパネル展示 <12月5日～9日 @I-linkタワー45階展望室>

## ○送迎・移動

→ 別紙「日中活動事業所における送迎の実態把握調査 中間報告」を参照

## ○泊まる場

ワーキングチーム等での具体的な取り組みは、現在のところおこなっていない。

平成 24 年 11 月 21 日現在

日中活動事業所における送迎の実態把握調査

中間報告

1、実施時期について

平成 24 年 9 月～10 月実施

2、概要について

①目的

市川市における日中活動事業所への通所方法について実態を調査し、将来的な通所体制の整備、基本的考え方などを考察する上での基礎資料とする。

②対象者

市川市内日中活動事業所（18 歳以上）（指定事業所単位）

③調査方法

E-mail 及び郵送や手渡しによるアンケート方法

3、調査実施者

市川市自立支援協議会 生活支援部会 日中活動連絡会

4、回収率について

対象箇所	57	回収枚数	52	回収率	91.2%
------	----	------	----	-----	-------

5、進捗状況

全体の集計作業は終了しており、A4 で 9 ページ程度にグラフ化までは行っております。送迎を行っているかの問いに対して、「送迎あり」が 36%程度に留まりながらも、その半数以上がドアツードア送迎を行っており、その重要性が現れています。また、送迎に関する負担額等に関しても、年間 100 万円～400 万円が最も多く送迎の事業には多額な負担がかかっている事が見て取れます。

さらに自由回答では、○高齢化等でドアツードアが必然的に増える 市川市内の道路の混雑の問題 身体障害者における送迎中のトイレが困難 地域活動支援センターに於ける送迎費用の比率 送迎時間の縮める割合が多い。 兼務職員に対してリスクマネジメントについて。 送迎から帰ると 17 時半。その間の残務を少ない人数で行う。立地的に大型車での送迎は難しい。

また、提案としては 事業所巡回の福祉送迎バス等があれば良いとは思いますが・・・等が挙げられています。

6、今後について

全項目を通じて、特筆する様な事項や、共通して考えられる内容を更に深く鑑み、クロス集計等をして問題箇所や課題を抽出して参ります。

## 就労支援担当者会議より

就労支援担当者会議（しゅうたん）では、施設見学会と就労移行事業所説明会を実施。また会議において、ワーカーズ☆と一くと就労部会についての議題の検討を実施した。以下報告です。

### 1.施設見学会について

- ・日時：平成 24 年 10 月 30 日①午前・②午後 11 月 1 日③午後
- ・内容：市内の特別支援学校や障害者施設、特例子会社等を企業担当者に見てもらう
- ・結果：企業からの参加者は 3 社 4 名（3 ルートのうち②は参加者なしで中止）
- ・課題：ニーズと企画のミスマッチなど
- ・今後：企業側のニーズ把握などをどのようにするか、企業側にこちらが出向く、ハローワークの雇用指導官に企業を集めてもらうなど

### 2.就労移行事業所合同説明会について

- ・日時：平成 24 年 11 月 18 日（日）13:00～16:30
- ・内容：市内就労移行事業所を一同に集め、全体の説明と個別相談を実施
- ・結果：参加者約 80 名
- ・課題と今後について：制度や資源について、市民がほとんど情報をもっていない。情報提供のあり方について。他のサービス資源との関連についてなど

### 3.「ワーカーズ☆と一く」について

・前回の本会議での結果を受け、会議内で検討。ワーカーズ☆と一くをそのまま継続するのではなく、そこで得られたニーズをもとに「集う場」「情報提供の場」のあり方を検討した結果、以下のような課題が挙げられた。

- ①場所や人件費などのコスト面
- ②金銭管理や異性問題など、派生的な問題への対応

### 4.就労部会について

- ・大まかな方向性 2 案について今後検討する
  - ①就労支援担当者会議（しゅうたん）、福祉的就労担当者会議（ふくたん）を部会に格上げする
  - ②就労支援部会開催の頻度を上げ、活性化する

## 福祉的就労担当者会議より

福祉的就労担当者会議（ふくたん）では、「ふくたんネットワーク」による企業からの共同受注の取り組みを進めるとともに、情報管理の強化を目的にメーリングリストを作成した。

### 1.ふくたんネットワークについて

- ・5月18日に活動報告・意見交換会を開催、取り組みの周知をはかった。
- ・24年度からの新たな受注依頼は事務局経由で7件（うち受注5件）。その他、事業所経由で数件。墓掃除の請負のような従来の受注業務とは異なる形態や、千葉県障害者就労事業振興センターからの大口の受注など、新しい展開も出てきている。

### 2.ふくたんメーリングリストについて

- ・「受注業務の情報が十分行き届いていないのではないか」「受注後の追跡ができていない」といった課題に対応して、メーリングリストを作成することにした（11月末まで1次募集）。
- ・加入メンバーを明確にして情報の周知を確実にするとともに、一定の期間で受注とりまとめ施設が状況報告をすることでその後を追跡できるようにする。
- ・併せて「ふくたん」議事録を配信して議題を共有するとともに、会議への参加を自由化する。

### 3.今後の課題・展望について

- ・就労支援部会・「しゅうたん」との関係の整理
- ・自主生産について

以 上